

令和7年度の歩み

市民の目線で団体の活動などを紹介してくれた市民記者のみなさんに、1年間の活動の感想を伺いました。



記事は
こちら



6月 田んぼの妖精「ハウネンエビ」

今年、妖精のいる田んぼのお米を少々分けていただく機会がありました。つやつやピカピカもちもちの新米で、他所の田んぼのお米と全然違うと感じました。品種や栽培の仕方も違うのだと思いますが、そんなお米が食べられる筑西市、ちょっと素敵と感じました。5~6月が見どころです。



島田 敏 記者

7月 伝統の技を家族で繋ぐ「桐乃華工房」

伝統の技を継承し、新しいことに挑戦し続ける家族を紹介しました。取材の中で、お互いをリスペクトしている姿が印象的でした。下駄や草履の鼻緒を足の指でしっかりつまむと気持ちが引き締まり清々しい気持ちになれます。下駄のランコロンと心地よい音の響き、伝統的な趣を大切にしたいと思います。



館野 敏子 記者

9月 安心安全な暮らしの要「市管工事組合」

私たちの暮らしに密接に関わるものでありながら、なかなか目にする事のない水道管ですが、管工事組合のおかげで安心して使えているのだと実感しました。東日本大震災の時には、インフラを守るために昼夜問わずに懸命に力を尽くしてくれたみなさんの想いに心を打たれました。



中島 英雄 記者

8月 地域に新たな伝統を「五葉盆踊り」

今年度は五葉盆踊りの立ち上げを取材させていただきました。取材をとおして地域に根づく思いや人の温かさを肌で感じました。緊張しながらマイクを向け、言葉を選び記事にまとめる中で、市民記者として“伝える”責任と喜びを実感しました。来年も現場の声を丁寧に届けていきたいです。



篠崎 栄一 記者

10月 定林寺の「板碑修繕」

定林寺の板碑修復を取材し、修復によって新たな歴史的事実が、次々と明らかになる瞬間に立ち会えたことに大きな感動を覚えました。取材を通じて、私たちの足元に眠る市の豊かな歴史と、それを守り伝える人の情熱を実感しました。これからも市民目線で発信していきたいです。



和田 恵子 記者

11月 エコの輪を広げる「養蚕エコの会」

正しくゴミの分別をすることで、地球温暖化防止、市の経費削減、自治会へのリサイクル還元金の増加に繋がるとことを知りました。私たち市民も税金の無駄遣いを減らすことができるのは良いことですよね。ゴミカレンダーやゴミ分別アプリを活用して私も実践しています。



小島 正美 記者

1月 官民一体のロケ支援「ちっくタッグ」

撮影に関わるスタッフや地域の人をサポートするボランティア活動の中、市民のみなさんが協力してくれた時が一番嬉しいと笑顔で答えてくれたことが印象的でした。田舎ならではのおもてなしで、都会の人の胃袋を掴む筑西市。今後「聖地巡礼」などで更に盛り上がるのが楽しみです。



廣澤 裕子 記者

12月 地元愛「川島まちづくりプロジェクト」

地域の魅力を発掘し、学びを深め、子どもたちにも学びを広げ、郷土愛を育む環境づくりへと繋げる活動に感動しました。小学校との連携もスムーズで、着実に成果をあげていく活動だと感じました。来年度も筑西市の元気の源をおすそわけできる取材をしていきたいです。



古井 陽子 記者

2月 世代を超えた交流「関城にっこり」

取材をとおして、会を運営している会員たちの熱意に刺激を受けました。その姿を見て「誰かの居場所をつくりたい」という思いや行動は、“自分の居場所をつくる”ことにも繋がっているのではないかと感じました。来年も生き生きと活動をしている人にスポットを当てていきたいです。



大泊 知子 記者

